

多読レベル 2

5分^{ぶん}後^ご 5分^{ぶん}あと、5分^{ぶん}すぎ。おなじようなみでも、いろいろな^い言^い方^{かた}があります。1^{ひと}つだったらいいのにね。



オリジナル 3

もく^{てき} じ^{かん} かん^{まも}
目的：時間を守る

「明日は遠足」

指導者の皆さんへ

📖 ジャボラNPO リライト本の目的

- ① 多読による、学習者の自己学習の推進。
- ② 外国人が理解しにくい日本人の心情や考え方、日本文化を学んでもらう。

📖 『多読表』を書く

これは、学習者の振り返り記録です。

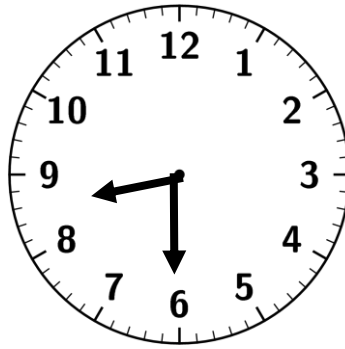
(ポートフォリオ)別紙

- ① 何冊読んだのか(多読)記録します。
- ② おもしろさを三段階で評価します。(😊 😐 😞)
- ③ 感想のひとこと書きができます。

多読表

【○ぜんぶよんだ △ぜんぶよまなかった】 【😊おもしろかった 😐まあまあ 😞あまりおもしろくなかった】

レベル	Vol	タイトル	読む 読む	○△	感想	😊 😐 😞
ジャボラ	0	「いれて」				
	0	「あすれもの」				
	1	宝地蔵				
	1	舌切り雀				
	2	あした せんたく				
	2	明日は遠足				
オリジナル	2	お母さんヘンシン ～わたしは、時間を守るわよ！				
	2	稲むらの火				
	2	主直五兵衛				



レオ君^{くん}はいつも時計^{とけい}を見^みません。
だから、レオ君^{くん}は、よく遅刻^{ちこく}をしま
す。

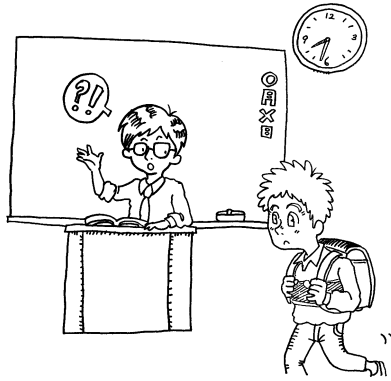
レオ君^{くん}が学校^{がっこう}へ来^きました。

いま
今^{いま}、八時半^{はいちはん}です。

もう一時間^{いちじかんめ}目は始^{はじ}まっています。

教室^{きょうしつ}に入^{はい}ると先生^{せんせい}がレオ君^{くん}に言^い
ました。

「ん：？」



「時計とけいを見てみてください。八時半はちはんです。

一時間いちじかん目はもう始はじまっています。

今日きょうも遅刻ちこくですね。どうして遅刻ちこくし

ましたか。」

「お母かあさんが起おこしてくれなかつ

たんです。」

「昨日きのう何時なんじに寝ねましたか。」

「…わかりません。」

「早く寝て、早く起きましょう。」

明日は遠足です。

遅刻しないで、学校へ来なさい。

バスは八時に出ますよ。」

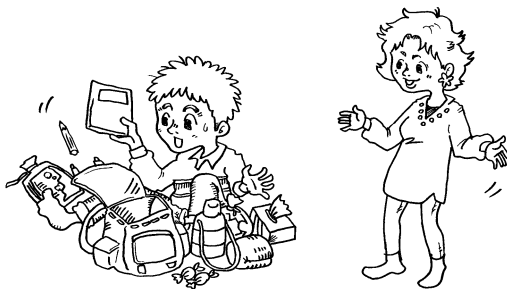
先生はレオ君の遅刻を心配してい

ます。

明日は遠足です。

レオ君は早く寝て、早く起きなければ

なりません。



遅刻^{ちこく}できません。

夜^よ、ごはんの後^{あと}で母^{かあ}さんが

「レオ、今^{いま}から買^{かい}い物^{もの}に行^いくよ。

いつものようにゲームもできる

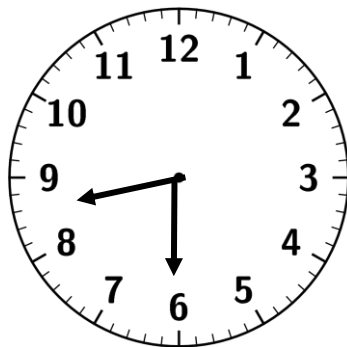
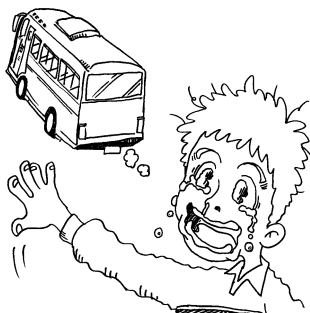
よ。」

と言^いいました。

レオ君^{くん}は、

「だめだよ。僕^{ぼく}は行^いかないよ。

明日^{あした}は遠足^{えんそく}だから、今日^{きょう}は早^{はや}く寝^ねる



と言いって、明日あしたの準備じゆんびをして寝ねまし
た。

レオ君くんは八時半はちはんに寝ねました。

レオ君くんは学校がっこうへ行いきました。

教室きょうしつには誰だれもいません。

先生せんせいや友ともだちは、みんなバスの中
で
す。



バスは出発しゅっぱつしました。

「待まって！」

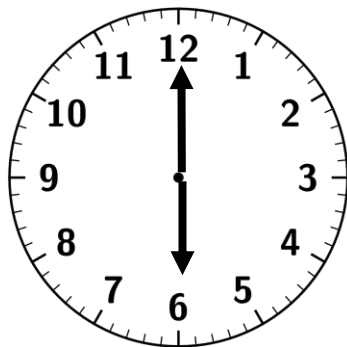
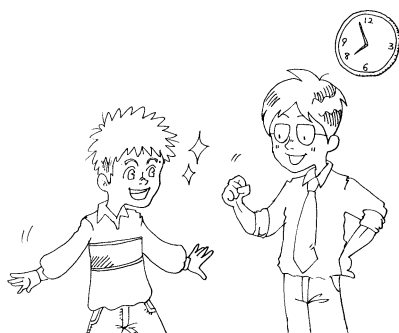
レオ君くんは泣なきながら走はしりました。

レオ君くんはびっくりして起おきました。

「よかった！」

夢ゆめでした。

次つぎの日の朝あさ、レオ君くんは起おきました。



時間^{じかん}は六時^{ろくじ}でした。

いつもより早く^{はや}起^おきました。

外^{そと}を見ると、いい天気^{てんき}です。

お母^{かあ}さんも早く^{はや}起^おきて、お弁当^{べんとう}を作^{つく}

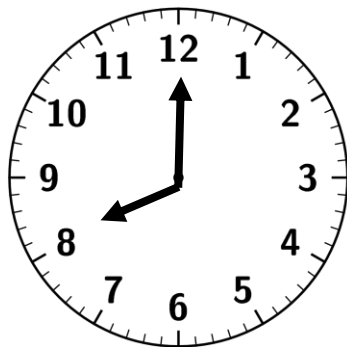
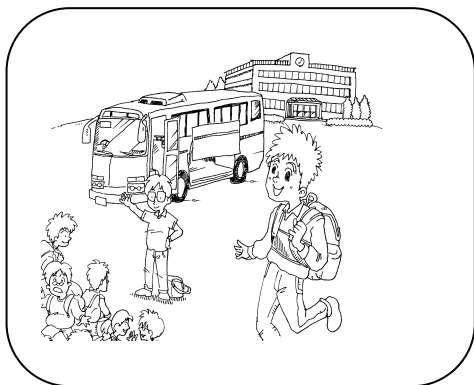
りました。

お母^{かあ}さんが作^{つく}ったお弁当^{べんとう}と水筒^{すいとう}を

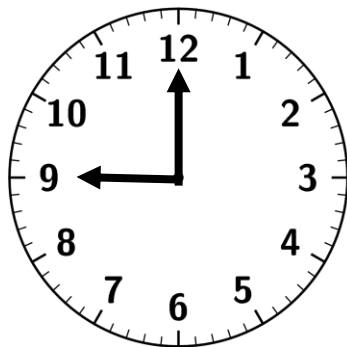
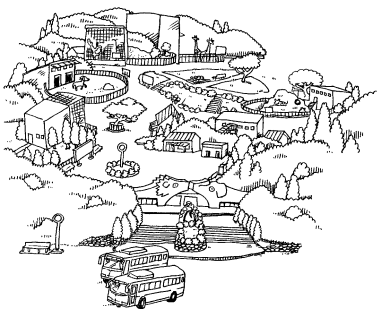
いつもより早く^{はや}学^が校^{っこう}に着^つきました。

教室^{きょうしつ}はとてにぎやかでした。

レオ君^{くん}はうれしくなりました。



レオ君^{くん}は、友だち^{とも}といっしょにバス
に乗^のることができました。
バスは八時^{はちじ}に学校^{がっこう}を出発^{しゅっぱつ}しました。
バスの中^{なか}で歌^{うた}を歌^{うた}ったり、動物クイ
ズ^{たの}をしたりしました。
楽し^{たの}かったです。



くじ
九時に動物園に着きました。
がっこう
学校から動物園まで一時間かかり
ました。

お
バスを降りて先生が話をしました。
せんせい
はなし

いま
「今から十一時までいっしよに
じゅういちじ

どうぶつ
動物を見ます。
み

どうぶつ
どんな動物がいるか、よく見てくだ
さい。

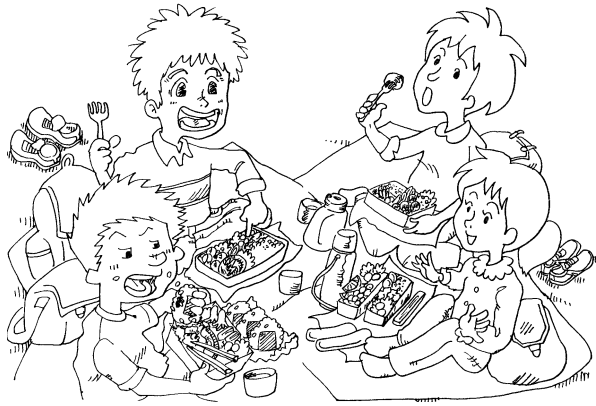


じゅういちじ
十一時からグループでお弁当を食
べます。

ひとり
一人でどこかへ行ってはいけませ
ん。

じゅうにじはん
十二時半に、ここに集まってく
ださい。」

しず
みんなは静かに聞いていました。



いろいろな動物どうぶつを見みました。

たくさんの猿さるが、おにごっこをして
いました。

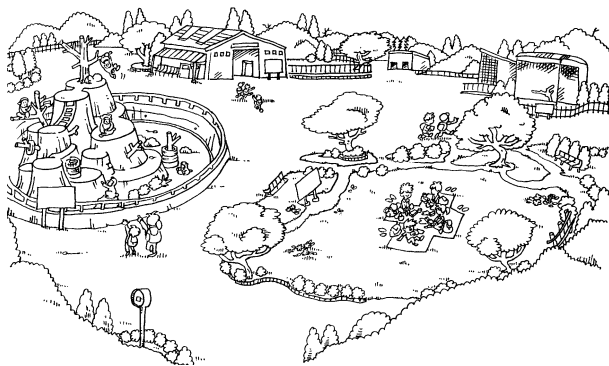
猿山さるやまの前まえのベンチで、レオ君くんは同じ

グループのミキさんとアイさんと

太郎君たろうくんといっしょにお弁当べんとうを食たべ
ました。

「お弁当べんとう、おいしいね。」

「あ、ぶどうだ。私わたし、大好きだいすき。」



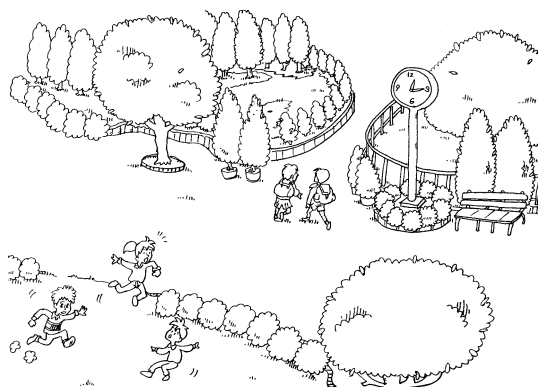
「おにぎりの中^{なか}に何^{なに}が入^{はい}っているかな。」

「これ、お母^{かあ}さんが作^{つく}ったハンバーグだよ。」

みんなは話^{はな}しながら食^{たべ}べました。

猿^{さる}が木^きに登^{のぼ}ってこっちを見ていました。

お弁当^{べんとう}の後^{あと}、みんなでおにごっこをしました。



「あ、十二時十五分だ。おにごっこ、
終わり！」

とミキさんが言いました。

「ぼく、トイレに行くよ。レオ君も

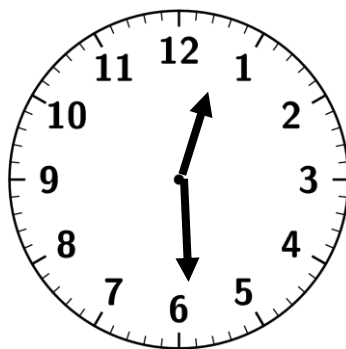
いっしょに行かない？」

と太郎君が言いました。

レオ君は、

「ぼく、まだ行きたくないよ。」

と答えました。



今、十二時半です。集まる時間です。

同じグループのミキさんが、

「先生、レオ君がいません。」

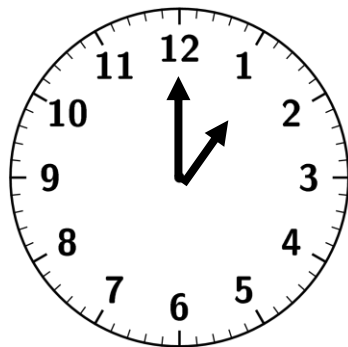
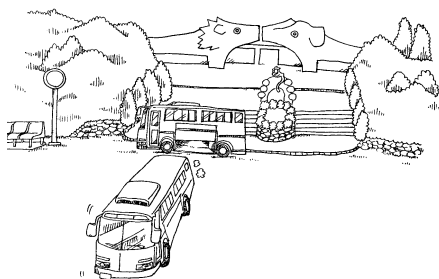
と言いました。

「だれか知りませんか。」

と先生がみんなに聞きました。

「知らない。」

「知らない。」



みんなは言いました。ミキさんは、
 「お弁当^{べんとう}をいっしょに食^たべて、おに
 ごっ^ごこをして…。」
 と困^{こま}って言いました。
 二組^{にくみ}のバスは一時^{いちどき}に出発しました。
 一組^{いちぐみ}のみんなはレオ君^{くん}を待ちまし
 た。



「あ、レオ君くんが来たき！」

「どうしたの。みんな待まっていたよ。」

「トイレに行いって道みちが分わからなく

ななって…。」

先生せんせいは大きおおな時計とけいを見みて、

「今いま、何時なんじですか。」

と聞ききました。

「…。」



レオ君は時計が分かりません。

先生が

「集まる時間に来ないとみんなが

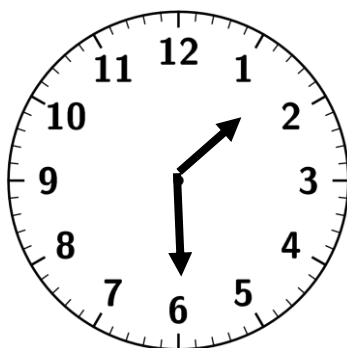
心配します。学校へ帰ることができ

ません。トイレはもっと早く行って

と言うと、レオ君は

「ごめんなさい。」

と言いました。



いちくみ
一組のバスは
いちじはん
一時半に出発しまし

た。バスの中なかで

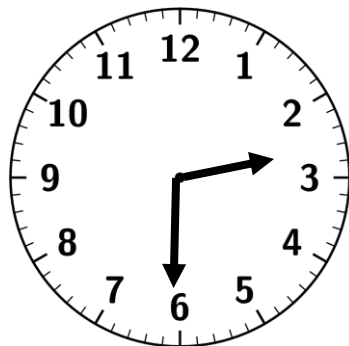
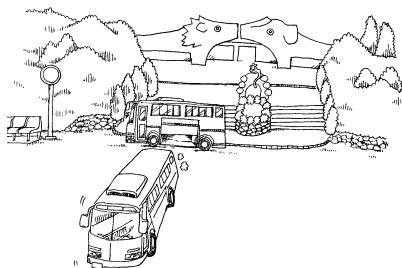
「レオ君くんがいなくて、みんな心配しんぱいし

たよ。」

「ライオンがレオ君くんを食たべちゃっ
たかと思ったよ。」

とみんなが言いいました。

「ぼくたちは五分前ごふんまえに集あつまったん
だよ。」



これから時間じかんを勉強べんきょうするよ。

教おしえてね。」

とレオ君くんは言いいました。

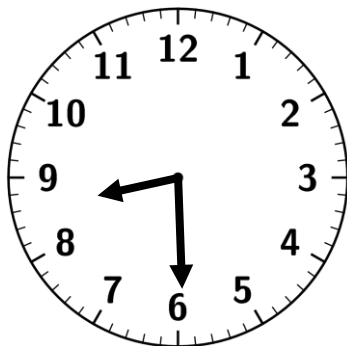
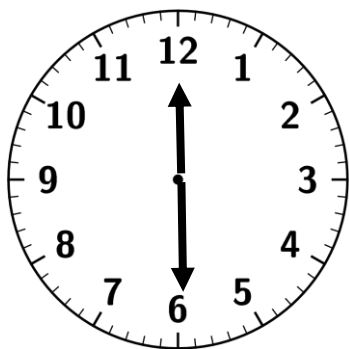
一組いちくみのバスは学がっこう校こうに着つきました。

今いま二時半にじはんです。

二組にくみのバスは三十分さんじゅうふん前まえに着つきました。

た。

今日きょうは楽たのしい遠足えんそくでした。



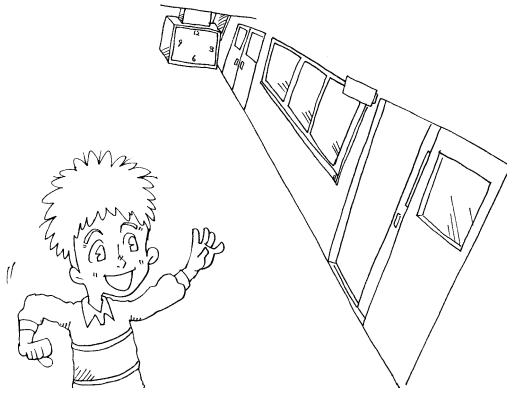
夜、レオ君はお母さんに遠足の話をして
しました。

早く起きて動物園の中をいっぱい
歩いてとても疲れましたから、
八時半に寝ました。

次の日の朝、六時に起きました。

「あら、早いね。どうしたの。」

「今日も早く行くだよ。」



とレオ君は言いました。

朝早く起きたから、レオ君は友達

と学校へ行くことができました。

レオ君は休み時間も時計を見て教室

に入りました。

レオ君は、少し時計を見るようにな
りました。



家に帰ると、大きな箱がありました。

「お母さん、これは何？」

「開けてもいいよ。」

レオ君は箱を開けました。

「わあ、時計だ。」

「テレビの横に置こうね。」

レオ君は時計を見ました。

お母さんも時計を見ました。

何だかとてもうれしくなりました。

【レベルについて ～大人編～】

- ◆本書は、NPO多言語多読監修「にほんご多読ボックス」(大修館書店)のレベルに基づいて作成されています。
- ◆学習者がレベルに応じて、楽にたくさん読めるように、語彙や文法を制限してあります。
- ◆下の表が、「にほんご多読ボックス」のレベルの詳細です。

レベル	語彙	字数/1 話	主な文法項目
0 入門	350	～400	現在形、過去形、疑問詞、～たい など ※基本的に「です・ます体」を使っています。
1 初級前半	350	400 ～1500	現在形、過去形、疑問詞、～たい など ※基本的に「です・ます体」を使っています。
2 初級後半	500	1500 ～3000	辞書形、て形、ない形、た形、連体修飾、 ～と(条件)、～から(理由)、～なる、～の だ など
3 初中級	800	2500 ～6000	可能形、命令形、受身形、意向形、～と き、～たら・ば・なら、～そう(様態)、～よう (推量・比喩)、複合動詞 など
4 中級	1300	5000 ～15000	使役形、使役受身形、～そう(伝聞)、～ら しい、～はず、～もの、～ようにする／な る、ことにする／なる など
5 中上級	2000	8000 ～25000	機能語・複合語・慣用表現・敬語など 例) ～につれて、～わけにはいかない、切り 開く／召し上がる、伺う

©NPO多言語多読については、ホームページをご覧ください。

<http://tadoku.org/>(「NPO多言語多読」でも検索できます。)

挿 絵：上ノ内 智之
創 作・監 修：ジャボラ NPO

